

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 6 年度実施報告（概要）

団体名：北海道教育大学附属札幌小学校

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
(ア. 社会科における指導)

2. 実践校について

実践校名	(ほっかいどうきょういくだいがくふぞくさっぽろしょうがっこう) 北海道教育大学附属札幌小学校	
全校児童・生徒数	実践研究の対象	
4 1 5 人	(学年)	(児童・生徒数)
	第 3 学年	7 1 人
	第 4 学年	6 9 人
	第 5 学年	7 0 人
	第 6 学年	6 9 人

3. 実践校における実践内容

(1) 概要

第 3 学年では「札幌市の発展」、第 4 学年では「地震災害」、第 5 学年では「農業」を取り上げ、学習指導要領の内容の取扱いにある「自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりする」「多角的に考えて、発展について自分の考えをまとめる」場面の社会科学習を構想する。学校行事や特別活動等との関連性も明らかにしていく。

(2) 2 年目(令和 6 年度)の実践内容

令和 6 年度は、3 年「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」、4 年「残したいものの伝えたいもの」、5 年「これからの食料生産とわたしたち」の授業実践を行った。

3 学年においては、これからの札幌市の発展に関心をもち、市が将来どのようなようになってほしいか、そのためには市民としてどのように行動していけばよいかなど、市の将来について考えたり討論したりする活動を取り入れた。4 学年においては、北海道内の文化財や年中行事に対する人々の願いや努力を考えたり、学習したことを基に地域の伝

統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりする活動を行った。5 学年においては、学習したことを基に、生産性や品質を高める工夫を消費者や生産者の立場に立って多角的に考え、これからの農業における食料生産の発展に向けて自分の考えをまとめる活動を行った。いずれの授業も、学習指導要領の内容の取扱いと関連付けて授業づくりを行い、よりよい未来を子供たちが考えられるように工夫するとともに、単元の問題解決的な学習の充実を図った。

4. 実践校における実施体制

校内の実施体制については、実施計画に基づいて授業づくりを行ったのち授業実践を行い、成果と課題を検証していった。授業実践については、北海道教育大学附属札幌小学校社会科部教諭 3 名を中心に、小学校 3～5 年において授業実践を行った。授業づくりでは、指導計画で示した「手立て 1 子供が社会とつながる教材作成と単元デザイン」「手立て 2 社会認識を深めるための一単位時間」「手立て 3 社会参画の力につながる一単位時間」を基に授業づくりを行い、「手立て 4 子供の具体の姿の見取りと検証」を行った。

5. 各研究テーマについて、2 年目の実践を踏まえた成果等

**【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
(ア. 社会科における指導)**

＜児童生徒が社会的事象に興味・関心を持ち、自分事として捉えながら、児童生徒に考えさせる教育活動を行うため、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

既習とのズレや子供の素朴概念とのズレなどが起こる社会的事象の提示により、「どうして?」「なぜ?」と感じられるような教師の手立ての工夫をした。

3 年生の授業実践では、未来の札幌市の人口が減っていくことによる驚きから札幌のまちの未来を構想していく姿を目指すことができた。5 年生の授業実践では、食料生産の未来について工業生産に携わる人も考えている社会的事象と出合うことにより、なぜ工業の会社が農業の生産を行うのかを生産者や消費者の立場から考え、未来の農業の発展について考えを深めることができた。

また、よりよい社会を構想する人物の営みに会うことで社会的事象に興味・関心をもつことができるため、具体的人物との出会いが生まれる単元デザインをしている。

4 年生では札幌市時計台の館長さんからの聞き取りを行い、5 年生では、クボタアグリフロントでの現地調査、JFE エンジニアリングの方をゲストティーチャーとしてお招きして聞き取りを行う活動を取り入れた。

＜発達の段階に応じた情報活用能力の育成(特に、社会的事象に関する情報を収集し、その情報を公正に判断し、自分の意見をもつこと)に関して、どのような指導上の工夫が考えられるか。＞

本研究においては、学習指導要領の内容の取扱いにある「自分たちにできることなどを考えたり、選択・判断したりする」「多角的に考えて、発展について自分の考えをま

とめる」場面の社会科学習を構想することとしている。そのことから、単元の中における調べる活動の中で、子供たちがどの情報を基に、どのように理解の質を高めていくかによって単元の後半の「選択・判断する」「発展について考える」活動が大きく変わってくるのが分かった。指導にあたっては、単元の学習問題づくりにおける社会的事象の提示の工夫はもとより、単元の一単位時間ごとの学びにおいても、適切な資料の吟味や提示の工夫が必要であることが見えてきた。また、一単位時間ごとの「問い」の設定によっても、子供が教科書や資料集、一人一台端末等を活用して収集する資料が異なるため、「問い」の吟味が必要であることが分かった。

＜教科等横断的な学習を充実するために、教育課程の編成に当たってどのような工夫が考えられるか。＞

令和6年度に行った授業実践では、教科等横断的な学習を充実するため、教育課程を見つめ直し、内容の関連を意識した。

3年生「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」は、総合的な学習の時間「わが街札幌探検隊」との関連を図った。5年生「これからの食料生産とわたしたち」も、総合的な学習の時間「Taberu?」との関連を図った。社会科の学習において学んだことを基にしながら、一人一人がもった「問い」を総合的な学習の時間の中で探究していけるような学習展開とした。これらの工夫を通して、教科等横断的な学習を充実するために、内容の関連を整理することの重要性を再認識することができた。それに加えて、子供一人一人の興味・関心等を生かし子供自身が主体的に学習テーマや探究方法等を設定することができるようにすることで、教科等で身に付けた資質・能力が総合的な学習の時間の探究にもつながっていることが成果として見えた。

主権者及び消費者の育成に係る指導の充実に関する実践研究
令和 6 年度実施報告（実践校における実践内容の詳細）

団体名：北海道教育大学附属札幌小学校

1. 類型

【類型 I ①】主権者に必要な資質・能力の育成に係る小学校又は中学校における実践
（ア. 社会科における指導）

2. 実践校名

北海道教育大学附属札幌小学校

3. 実践校における令和 6 年度の実践内容

【3 年「市の様子と人々のくらしのうつり変わり」（9 時間）】

学習指導要領の位置付け

第 3 学年の内容（4）に該当する。

また、内容の取扱いウにおいては、

「イのアの「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること。」とされている。

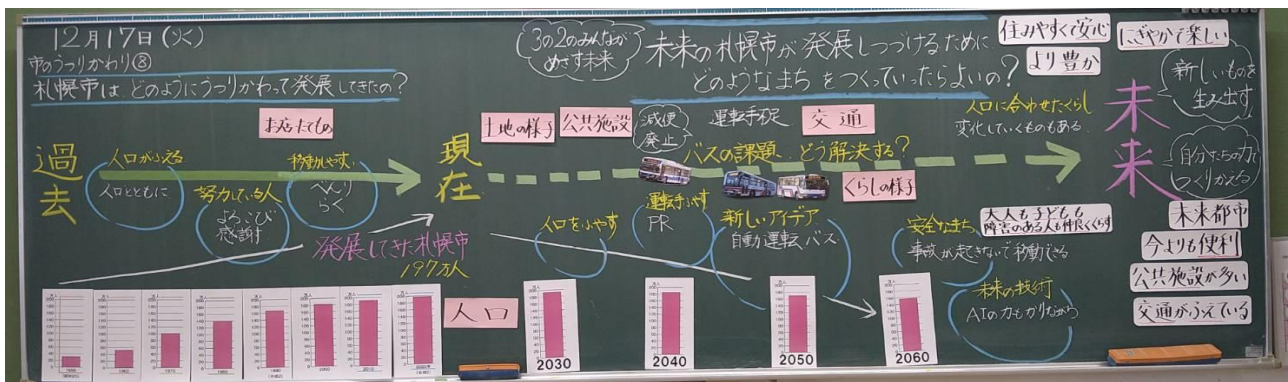
札幌市の将来の発展について考える

札幌市はどのようにうつり変わってきたのかを調べてきた子どもたちは、交通や建物、土地の様子と人口の増加を関連付けながら理解の質を高めていった。

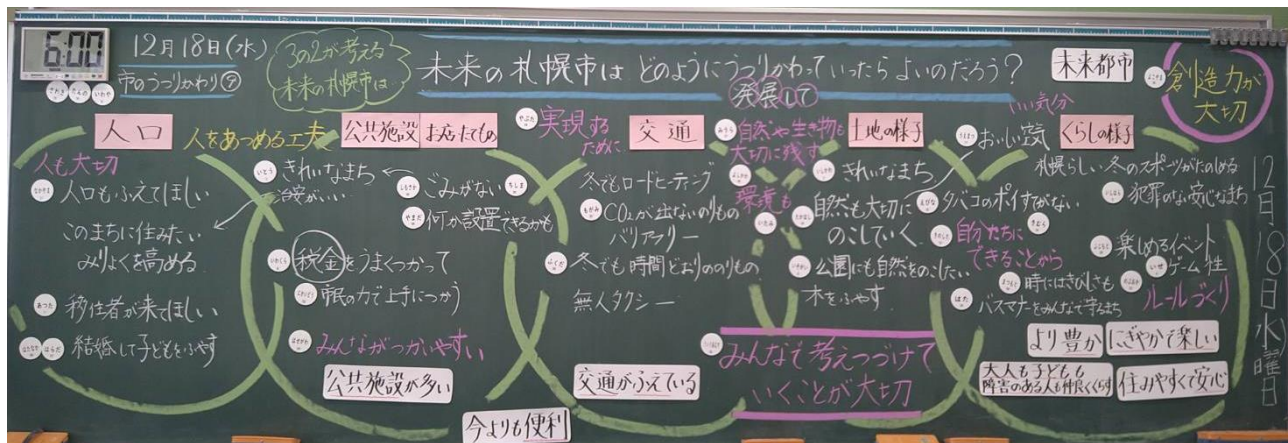


単元の 7 時間目のまとめる活動では、人口が増えることで、土地を拓けたり、みんなが使いやすいように便利に過ごすために公共施設や公共交通を増やしたりしてまちが発展していったことをまとめている。

こうした社会認識を深めてきた子供に、8時間目では札幌市の人口減少予測の資料を提示した。



人口減少を知った子供は、驚きの様子ではあったものの、将来の札幌市もよりよいまちにしていきたいという思いをもった。そこで、8時間目と9時間目では札幌市が考える未来のまちづくりに関する資料を基にしながら、これからの札幌市の発展について考えていった。



A児の考え

これまで学んできて、色々分かった。例えば自然を残したままの公園や無人タクシー、きれいなまちに美味しい空気。こんな未来にするためには、みんなで考え続けていくことが大切だと分かった。最初は小学生の私達にできることはないかなと思っていた。でも自分たちでできることからでもいいと知ってこれからやってみようと思った。今よりも便利になっても人口が減っていたら悲しい。だから人口を増やすためには札幌市をきれいにしてみんなが札幌市のことを分かってあげられるようにならなくては札幌市に引っ越そうとは思えないと思う。だからしっかりきれいにして札幌市はきれいですよとアピールしたい。

何十年後には私達が目指してる未来になってほしい。そしてずっと今より良い未来を目指してほしい。そしてマナーの良い、優しい明るい札幌市でいてほしい。さらに公共施設やにぎやかで楽しい住みやすく安心な札幌市になってほしい。この社会科の勉強で札幌市の移り変わりがわかった。これからも札幌市について調べたり、考えたりしていきたい。

B児の考え

未来のことを学んだ。その中でもわかったことは、人口は結婚をして子どもを産み、人口を増やす。きれいなまちにして、たくさん人が集まる。そうしたら人口が増える。公共施設は税金でたくさんの建物を建てる。市民の協力で様々な建物やみんなのためになる取組を増やしていく。交通はCO₂を出さない乗り物を作っていく。いつの間にも安心な交通にする。土地の様子は自然も大切にしてみんなで豊かなまちにする。自然も建物も大切に。くらしやマナーも大切にする。みんなで楽しいまちにする。自分たちができるところからきれいにしていく。そうしたら未来がより豊かになって人口が一番多い市になったり、素晴らしい札幌市になったりしていくと思う。

一人一人が単元で学んだことや札幌市まちづくりビジョンを基にしながら、札幌市の将来の発展について自分なりの考えをもつことができた。

【4年「のこしたいものつたえたいもの」（8時間）】

学習指導要領の位置付け

第4学年の内容(4)に該当する。

また、内容の取扱いにおいては、

「イのアについては、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。」とされている。

自分たちにできることを考えたり選択・判断したりする

単元の学習計画を立てた際、子供から実際に札幌市時計台を見学したり、聞き取りをしたりして調べたいという思いが生まれ、単元の中に見学や聞き取りの時間を設定した。

重要文化財である札幌市時計台が昔の姿のまま変わらないのは、修理を続けたり大切に保存したりしてきた市民がいたことを捉えている。市民の代表として時計を守るIさん親子の営みにもふれている。見学や聞き取りでは、札幌市時計台の館長さんから時計台の時計の重りの巻き方の苦勞も聞き取っている。



こうした学びを積み上げてきた子供たちに、単元の7時間目ではIさん親子が81年間にわたって時計を巻き続けていた社会的事象と出合えるように資料提示をした。社会的事象の意味を考える活動を通して人物の営みを共感的に捉え、札幌市時計台へ誇りや愛情をもつ姿が見られた。



C児の考え

市民のみんなで守り続けてきた時計台だから、わたしたちも大切にしていきたい。
これからもずっと、時計台の鐘が鳴り続けてほしい。

D児の考え

時計台を守り続けてきたIさん親子や館長さんの思いが伝わってきた。自分たちももっと、時計台の魅力について伝えたい。

子供たちは、よりよい社会を構想する人物の営みに出会うことで、自分たちにもできることを考えたい、自分たちも札幌市時計台を守る市民の一人でありたいという思いをもつことができた。

学習指導要領の位置付け

また、内容の取扱いイにおいては、

農業の発展について自分の考えをまとめる

D児のまとめ

[illegible]

スーパーで産地を気にする。やっぱり、少した商い、国産のイ
 食いのと買って食う方外、主食用のイモは環境に
 毛をさける事かできるかもしれない。輪入の時にCO2を
 ちう争かできず、15人でも、地産地消をやつてくれたら、
 産地消をやつてくれたら、いいと思ふ。私外、いいと思ふ解決方法
 は、2つあります。まず1つ。目はスマート農業についで。スマ
 ート農業は、人手不足、環境問題など、色々な解決につながるの
 だと思ひました。特に、
 外に、こいた、アグリテックか
 いと思ひます。KubotaのAGRI FRONTでみた、レタ
 スの完全閉鎖型植物生産装置などでアグリテックを使えるかと思
 ました。2つ目は環境問題の環境保全型農業で、
 ちゃんとかんたん、
 ちゃんとかんたん、
 肥料を使わずに、土や環境を守る



G児
ぼくは、い。
を育いてた
る。ある農
業うに

G児の考え
ぼくは国に提案したい。小学生が農作物を育てる教育をしていくと、「自分が育てた野菜は好きになる」というデータがあるから、消費者が農業に愛着をもつようになると思う。

単元の４時間目に一人一人がまとめた考えを、単元の５時間目に全体で交流をした。単元で学んだことを基にしながら、根拠をもって自分の考えを述べる姿が見られた。

このように、３年生から５年生までの学習において学習指導要領の内容の取扱いと関連付けながら授業実践を行うことで、**主権者に必要な資質・能力の育成を目指した。**